

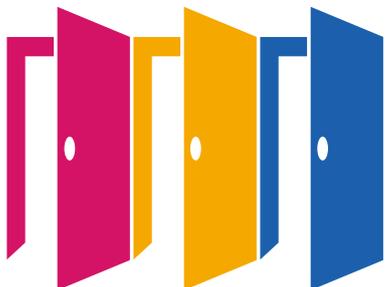
Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之
幹事 堀田一彦



第1632回例会

令和2年8月6日 (12:30～13:30)

○ソング

- 国歌 (君が代) ●奉仕の理想

○スマイルBOX

- 白河RC 会長 佐藤厚潮様 (本年度白河ロータリークラブではローターアクトクラブ設立に向け準備しているところです。御協力よろしくお願いします。)
- 白河RC 幹事 鈴木昇治様 (白河西ロータリークラブのみなさん、1年間よろしくお願いします。)
- 吉野敬之会長 (佐藤会長、鈴木幹事ようこそ。今年も宜敷くお願い致します。吉成様、増子様、瀬谷様、入会おめでとうございます。皆様と一緒に活動出来るのを楽しみにしております。緑川君ありがとう。)
- 堀田一彦幹事 (白河クラブ佐藤会長、鈴木幹事、1年間よろしくお願いします。新入会候補者の吉成さん、増子君、瀬谷君ようこそ！)
- 小林義勝会員 (白河クラブ佐藤会長、鈴木幹事様ようこそ！1年間宜しく申し上げます。)
- 山田顕一郎会員 (入会者紹介状、ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。担当例会に関わらず中座しますことお詫び申し上げます。)
- 金田昇会員 (白河クラブ佐藤会長、鈴木幹事ようこそ。吉成さん、増子さん、瀬谷さん、入会を楽しみにしております。盛夏の候 みなさまご自愛下さい。)
- 仁平喜代治会員 (瀬谷さん卓話ありがとうございました。白河RC会長、鈴木幹事ようこそ。誕生日祝ありがとうございました。)
- 吉田充会員 (白河RC佐藤会長、鈴木幹事ようこそ！！新入会員候補 吉成さん、増子さん、瀬谷さん、お待ちしております。入会おめでとうございます。)
- 池田浩章会員 (白河RC会長佐藤厚潮様、幹事鈴木昇治様、中小企業同友会吉成真五郎様ようこそ。誕生祝いありがとうございます。)
- 関谷亮一会員 (白河RC会長佐藤会長、鈴木幹事、中小企業同友会吉成様、新入会員候補の増子様、瀬谷様ようこそおいで下さいました。本日会議の為早退させていただきます。)
- 永野文雄会員 (ゲストの白河クラブ会長・佐藤様、幹事・鈴木様、中小企業同友会の吉成様、ようこそ白河西クラブへ。入会予定の増子様、瀬谷様、お待ちしております。皆さん、コロナと猛暑に負けない様に。)
- 成井正之会員 (白河RC佐藤会長、鈴木幹事様ようこそ。瀬谷さん、吉成さん、増子さんご入会の出席ありがとうございます。次回からRC活動を一緒に楽しみましょう。今月は誕生月です。なので多めにスマイルします。)
- 熊澤直紀会員 (白河ロータリークラブ佐藤会長、鈴木幹事、今年もよろしくお願いします。吉成様、増子様、瀬谷様ようこそ。誕生日祝い、ありがとうございました。)

▶第1632回例会出席状況 (R2年8月6日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	26名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	10名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	36名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	54
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	66.6%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



吉野敬之会長

皆さん、こんにちは。本日も元気に皆さんが参加していただきましてありがとうございます。梅雨が明けたばかりでございますが、明けたら明けたで非常に酷暑ということで、皆さん体調管理には十分お気を付けいただきたいというふうに思っております。昨日、私は休みでしたので太平洋クラブのほうでゴルフをしてきたんですが、今週末、私共のクラブのとりきりせんということでゴルフコンペがありますので、決して先に予定行先というよりは皆様の安全確保のために確認に行っていましたので、安全でございました。日曜日は非常に涼しい中で、皆さんと一緒にゴルフをやるのを楽しみにしております。まず、本日はお客様のご紹介をさせていただきたいと思っております。白河クラブ会長の佐藤厚潮会長でございます。同じく、鈴木昇治幹事でございます。佐藤会長のほうには、後から一言ご挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いたします。続きまして、今日はお客様がいっぱいらっしゃってまして、入会見込み、予定者、いやもう既に入会したのではないかと噂の吉成真五郎様です。同じく、増子国安様です。同じく、瀬谷隆志様でございます。3名の方にも後程ご挨拶を頂戴するとともに、瀬谷様には本日卓話のほうもお願いしておりますので、いろいろとお話を楽しみにさせていただいております。今年度、今日のプログラムは会員増強委員会担当例会ということで、会員増強は常にロータリークラブの懸案事項でもありますし、今年度、石黒ガバナーにおかれましては活動目標ということで、増強を非常に強く打ち出されております。私共のほうの重点活動目標の中でも、純増4名という若干高めの設定をさせていただきましてスタートしたわけですが、山田増強委員長をはじめとする増強委員会のメンバーがいろいろと努力をさせていただきまして、多分今日の帰り際、3名の方は何某らかの紙に名前と住所を書いていただけたのかなと思っておりますが、本当に増強委員会だけの問題ではなくて、クラブ全体で取り組むべき問題だなというふうに思っております。今日、皆様のお手元にペーパーのほうがお渡しされてると思うんですが、こちらのほうの説明は後程、増強委員長のほうからされると思いますが、いろいろ勧誘をしたり、増強に直接動いていただける方ももちろんですし、そういう方をバックアップしてしていただく方ももちろん非常に力強いです。そういう方、皆さん達の力を結集いたしまして何とか増強4名というものを図っていきたくと思っております。石黒ガバナーはもう一つ仰ってました。増強に関しましては、もちろん増やすことも大事だけど、現有メンバーの方が残っていただく、辞めるというような退会というようなことがないようにし

ていくことが大切だというようなこともお話をされておりました。その中で、もちろん退会をするのではないかとという心配してたわけではないんですが、やはり忙しい中なかなか例会に出席が難しいという方もいらっしゃるんですけども、たまたまそういう今年度の始めの頃に話をして、月に1回は最低でも出てくれよと、何とか頑張ろうと話をしましたら、もう既に緑川委員におかれましてはまだ欠席が2回という非常に高い出席率を誇って現在に至っております。皆さん、是非拍手のほうを。実は、こういうことを言い続けている私にとっては非常に応援になりまして心強く感じております。もちろん、仕事が忙しかつたりする中で全部が全部出席ということはもちろん難しいとは思いますが、その中で来てくれるというその気持ちが非常に私は嬉しく感じております。そういうメンバーが一人一人と繋がっていき、そういうメンバーが増えていくことが今年の私の楽しみなのかなと改めて感じさせていただきました。ありがとうございます。今日はそういうわけで、プログラム並びにご挨拶が目白押しでございますので、短めにと申したらもう5分も喋っておりました、大変申し訳ございません。この辺で、会長の時間とさせていただきます。本日は、よろしくお願いたします。

■幹事報告

堀田一彦幹事

- 白河ユネスコ協会会長 小野利廣：建鋒山祭祀遺跡周辺案内看板整備に係る書面役員会について
- 白河市国際交流協会会長 内藤義久：令和2年度白河市国際交流協会総会資料の送付並びに会費納入のお願いについて
- 公益財団法人ロータリー日本財団理事長 千玄室：確定申告用寄付金領収証についてのお願い
- 白河南ロータリークラブ：年次計画書の送付について
- 2020-21年度国際ロータリー第2530地区県南分区ガバナー補佐 遠藤武士：石黒秀司ガバナー歓迎会開催のお知らせ
- 国際ロータリー第2530地区ガバナー石黒秀司、青少年奉仕委員会委員長 遠藤久：青少年奉仕委員会セミナーのご案内
- 国際ロータリー第2530地区ガバナー石黒秀司、社会・国際奉仕委員会委員長 渡辺浩子：社会・国際奉仕委員会セミナーのご案内
- 青少年奉仕委員会委員長 遠藤久、米山記念奨学会委員会委員長 阿部光司、学友・平和フェローシップ委員会委員長 鈴木美恵子：青少年奉仕委員会、米山記念奨学会委員会、学友フェローシップ委員会合同セミナー「福島に多くの学友を育てよ



う！」開催のご案内および参加申し込みについて

- ロータリーの友事務所：「ロータリーの友」での新型コロナウイルス感染症の影響調査について

■本日のお客様

- 白河ロータリークラブ 会長 佐藤厚潮様



皆様、改めましてこんにちは。今、ご紹介いただきました白河ロータリークラブ63代の会長を拜命いたしました佐藤厚潮と申します。職業は、外国人の留学生に日本語を教える学校を経営しております。今、ちょうどコロナということで4月に入る予定だった学生が日本に来れない状態で非常に大変な状態になっておりますが、ただ20名の学生が入学する予定だったんですが、一人もキャンセルは出ていません。というのは、以前のSARSの時もそうだったんですが、日本に来るためには相当の準備をしてビザの手続きなどをやってるんですね。ですから、こういったことですぐにキャンセルというのはなかなかないです。ですから、このコロナが納まればすぐにでも日本に来たいというふうになってるところです。クラブの紹介を少しだけさせていただきたいと思うんですが、当クラブでは今年は「ロータリーでわれづくりを」というテーマを抱えております。というのは、自分たちの自らを鍛える、磨き上げるといふのをロータリーで出来るのではないかと。ロータリーではそういった活動に適した組織ではないかと考えて、そういうテーマにしました。そのためには、人づくりをするためには若者を育てようということで、今年は白河にローターアクトクラブ、18歳以上の青年を自立心と社会性などを養えるようなそういった団体と作ろうではないかということで、今準備をしているところです。青年の団体というのはいろんな組織はありますので、例えばJCであるとかYEGとかありますから、そういう組織もあるんじゃないかという人もおられますが、昔白河にご存じの方もいるかと思いますが、ふれあいウォークというイベントがあったかと思うんですが、その時にもJCと商工会議所青年部の皆さんと、その他の第三局の団体の青年が一緒になって活動しました。私もそこに入って活動した一員だったんですが、その時に実はJCなどの団体にすごく憧れて羨ましいとすごく思ったんですね。ということは、そういう青年もきっといるのではないかと。そういう人たちのためにもローターアクトクラブを設立して若者を育てていければなと思っております。福島中央ロータリークラブの福島中央ローターアクトの会長さんというのは、イトウオーディーさんという方なんですが、モンゴルの元学生なんですが、モンゴル人なんです。米山奨学生だったオーディーさんが就職、自分で起業して、そして日本人の女性と結婚して、そして今、ローターアクトクラブの会長をやっています。私も学校のほうにもそういった留学生が沢山おりますので、外国人の留学生と一緒に

活動ができるローターアクトクラブを作ればなと思っておりますので、もし皆様のご子息、従業員の方でそういった年齢の方。今、年齢制限が上限がなくなったそうですので、40歳くらいまでの方が対象になるそうです。そういう方がいらっしゃいましたら、是非参加していただければと思います。どうかよろしく願いいたします。

■新入会員候補者の挨拶

- 吉成真五郎様



皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました吉成真五郎と申します。会社は「有限会社オフィス・ランライフデザイン」という会社を経営しております。損害保険、生命保険、金融商品仲介業というものを柱として経営しております。このロータリーという会の本質的なところというのはまだ良く理解できてないかもしれないんですけども、諸先輩方と楽しく活動できればと思ひまして今日参りました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

- 増子国安様



皆様、こんにちは。本日はお招きいただきまして、誠にありがとうございます。わたくし、増子国安と申します。勤めは「株式会社共和建商」、田島にありますレンタル屋でございます。今年46歳で、会社のほうでは3年半前に社長交代しまして、今年社長4年目でございます。結婚記念日は11月1日でございます。今回、JC卒業させていただいております。沢山の先輩の方にお世話になりまして、PTAですとかそんな活動を通じながら大変尊敬する偉大な先輩方から呼んでいただきまして、本日参加させていただきまして。会社のほうでは、やっぱり地域に貢献するというので、当然納税もそうですがその他にもいろいろと子供たちのためや地域のために頑張りたいと思ひて、そんなことを教えていただければ大変助かるのかなと思ひております。お酒とかゴルフはあんまり好きではないんですが、どうぞよろしく願いいたします。

- 瀬谷隆志様



「合同会社イロドリ」の瀬谷隆志と申します。どうぞよろしく願いいたします。昨年、西ロータリークラブ様から多大なご寄付をいただきましたこと、この場を借りて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。この後、卓話が控えてますのでご挨拶はこのくらいにさせていただきますと思ひますので、どうぞよろしく願いいたします。

■委員会報告

○親睦活動委員会

根本あゆみ副委員長

・誕生日

林利勝名誉会員、仁平喜代治会員、池田浩章会員、
成井正之会員、熊澤直紀会員、鈴木典雄会員、
鈴木信教会員、島田修一会員



○雑誌広報渉外委員会

横田俊郎委員



皆さん、こんにちは。今年度、雑誌広報委員会を務めさせていただきます横田でございます。よろしくお願いたします「ロータリーの友」の見どころをご紹介します。まずは横組み3ページ目でございますが、R I 会長ホルガー・クナークさんのメッセージということで載っております。その中、右上のちょっと下くらいですかね。先程の吉野会長のお話にもありましたが、せっかく会員数が増えたとしてもその翌年にその会員たちが退会しては意味がないのです。ロータリーを持続的に成長させましょうというようなコメントが載っております。続きまして、12ページからはコロナ禍ということで最も重要な局面で奉仕を実践する職業人たちということで、医療関係者の方、あと葬祭業の方、そういった方々の話が出ております。それから18ページには、「2020年バーチャル国際大会」ということで、今回はインターネットを使った大会になったということで、こちらご紹介が出ております。26ページのほうに「2020-2021年度R I 理事会メンバーのご紹介」というページがございます。日本からは辰野克彦さんという東京西ロータリーの会員の方がご紹介をされております。そして、後半のほうには連載コミックということで、ポール・ハリスとロータリーということで生い立ちの後半が書かれております。続きまして、縦組みのほうでございますが、4ページですか。茨城大学の名誉教授の小泉さんという方の「岡倉天心の転換点」というタイトルで講演のお話が出ております。岡倉天心というのは東京美術学校設立を指導し、また日本美術院を創設して近代日本画の発展に寄与した日本美術史研究の開拓者という方だそうなんですけれども、五浦という所にお住まいになられたということでございます。名誉教授の小泉さんは、いわき市立の美術館の学芸員、郡山市立美術館の主任学芸員などを経られたということで、福島のほう

にもゆかりのある方の講演の内容でございます。それから最後に、12ページに「友愛の広場」というところがございまして、その中に大田ロータリーの谷本さんという方「新型コロナウイルス禍での感激」という話が出ておまして、ドラックストアでマスクを買いに行かれた時のお話を書いておまして、私はあんまりこういう並んだ経験なかったんですけども、非常に読んでるとなんかこうドキドキするとか、こういう経験皆さんなされているのかなと思いつつながら読んでおりました。今月の見どころは以上でございます。

■本日のプログラム

会員増強委員会担当例会

○会員増強委員会

山田顕一郎委員長



改めまして、こんにちは。会員増強委員会委員長を務めさせていただきます山田と申します。先程、吉野会長からお話ありました通り、本日入会候補者紹介状というのを皆様にお配りさせていただいております。大体ざっと見ればこちらの要求といいますが、お願いしたいことがわかると思うんですが、またこちら最後というか途中で話させていただきます。この紹介状のもとになったベースというのはサクジ作戦という作戦がかつてロータリーの中であったということで吉野会長からご指導いただきまして、私なりにサクジ作戦というのがどういふものであったかというのを得意のネットで検索して勉強しましたので、その辺の経緯と顛末のお話させていただくと、今日担当例会にも関わらず私ちょっと1時半までに近くの組合の会館まで行かなければならないので、その後先程お話ありましたゲストの瀬谷さんに卓話をいただいて二本立てということで進めさせていただきます。そのサクジ作戦というのは、私は吉野会長から言われて初めて聞いたんですけども、先輩の会員方も結構聞いたことあるという人はいらっしゃるのかいらないのかちょっとわからないんですが、サクジというのは2012年から2013年度の国際ロータリーの会長を務められた日本で3人目の国際ロータリーの会長だった田中作次さんという方の作次というお名前と、サクセスジャパンということで、かけて「サクジ作戦」という会員増強のプログラムを掲げたということで。今現在の日本のロータリアンは今年の5月で8万8千人くらいいっちゃって、そのサクジ作戦が始まった時、2012年から3年間のその計画で、大体その頃も8万8千人前後のロータリアンだったんですが、その数を日本で10万人まで乗っけようという目標を掲げて、そのやり方というのが自分のクラブ以外の地域、別にどこでもいいんですが、青森でも東京でも札幌でもどこでもいいんですが、知人または友人をその他のクラブの会員候補として現地のロータリークラブに推薦するというやり方をやってみよう

ということと呼びかけたわけなんですけど。まず、その前提としては例えば白河西ロータリークラブは他の地域の方から推薦を受けた場合、その引き受けるかどうかというのを表明しなければならないんですけども、ちょっと吉野会長に先程聞いたところ、白河西はそういう表明はしなかったんじゃないかというお話でありました。その辺の情報をネットで検索して、各地のロータリーの週報ですとか、各地区のガバナー月信を見てみたんですけど、見つけれられるものを見てみたんですけど、新潟の三条南ロータリーさんが2013年の8月の週報で、サクジ作戦が始まって1年後のデータとして、誰かほかの地域から推薦を受けた場合に引き受けますよという参加表明をしたクラブが869だったと。大体50パーセント以下くらいのクラブが表明してると。実際に飛び交った日本全国でほかの地域にこの方を推薦しますという推薦状が実際出されたのは1年後で41万人で、実際入会に繋がったのかどうかはちょっと読み取れなかったんですけども、そういうのをまず見つけました。さらに2014年2月の2510地区という北海道西部のガバナー月信に、その地区のガバナー補佐の森ロータリーという北海道森町という大変小さい町のロータリークラブだったんですけども、石山さんという方が記事にしております、その石山さんという方は本州に在住する自分のいとこ1名を含む計5人の方を他のクラブに紹介したそうです。そのうちの一人は、その紹介した先のロータリーの担当者さんから、その紹介した方との面談の約束が取れましたと石山さんのほうに連絡があったんですけども結局それっきりだったと。いとこについては、石山さんがいとこに連絡したところ、実際現地のロータリーの例会に参加したと。ただ、ちゃんとその際に参加したいとこの方はその石山さんから紹介されてこのロータリーの例会に来ましたよというのを伝えたにも関わらず、そのロータリーから石山さんに全く連絡がなかったと。残りの3名に関しては、全くどこからも音沙汰がなかったということで、当然ですけどこの記事を書いた石山さんという人は、受け入れ側の対応がもうちょっとやってくれよという、なんとも読んでてちょっといたたまれない気持ちに私はなりました。ちょっと暗い話題が続きましたので、成功した例はなかったのかと思って探したところ、1件愛知長久手ロータリークラブさん、当時の会員数は20名ですか、2014年4月の週報の中でサクジ作戦によって「藤ヶ丘矯正歯科」の医院長の伊藤さんという方が入会に繋がったと。紹介した方は、島根の出雲中央ロータリークラブのやはり伊藤さんという方だったので、ちょっと親戚筋にあたる人だったのかなと推察しましたがけども。ちょっと見つけられたのはそれぐらいだったんですね。ちょっとやっぱり他地区にまたがった会員増強というのは厳しいものがあつたのかなと私は推測したんですけども、結果的に別に批判とかそういう意図は全くないんですけども、ほとんどサクジ作戦が始まった時と目標に掲げた3年後の会員数というのは8万7430人ということで、若干3百人ぐらいは増

えてはいたんですけども、残念ながら大きな増加には繋がらなかったということで、やっぱりその各会員増強といういろんなマニュアルなり方法というのは見つけることはできるんですけども、どうしても話す時は一律的なこう会長も仰ってましたけども、退会者を出さないとか、例会の内容を工夫するとか、女性会員を増やすとかいうのがあると思うんですが、各地域に合った大きな町と小さい町といういろいろその町の状況も違うでしょうし、地域の実情に沿った会員の拡大を地道にやっていくしかないのかなという結論に至ったわけでありまして。そこから、身近なところを地道に切り開くしかないということで、ちょっと強引にこの入会候補者、紹介状に繋がりますが、こちらもし皆さん今日お越しの会員の皆様の中で、必ず入るとか入らないとかというのは別にそこまで気にしません。もし、頭に思い浮かんだ人ですとか、この人いいんじゃないかというのがあったら、当然その推薦をされる方に連絡するというのは取っていただいたほうがいいと思うんですが、できればこれを事務局にファックスいただくか、私のところでも会長のところでも結構ですので記入して出していただければと平にお願いするわけでございます。一応、1か月くらい8月の最終例会を取りあえず一旦の期限と区切りとさせていただきます、もしいらっしゃれば何卒いただければですね、私もその委員会でサポートさせていただきますので、今年度4名ということは必ず少なくとも4名というのは達成したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。続きまして、瀬谷さんの卓話をいただきたいと思うんですが、本人からもお話がありましたけど、昨年西ロータリークラブのほうから瀬谷さんの経営するところに寄付をさせてもらいましたので、その後の状況などお話していただければと。いずれは、入会する人だとして何か意気込みがあれば是非よろしく願いいたします。

○合同会社イロドリ

瀬谷隆志様



改めまして、「合同会社イロドリ」の瀬谷と申します。よろしく願いいたします。白河の瀬谷ビルの瀬谷と言ったほうが知ってる方も多いのかなと思いますけども、この「合同会社イロドリ」というところでは、「いろどりキッズ」といまして児童発達支援事業所といいますお子さん大体2歳から5歳までの発達障害の疑いのあるお子さんを預かってる施設を運営させていただいております。先程もご挨拶させていただきましたが、昨年2月にこの場で卓話をさせていただきましたが、その後西ロータリークラブ様のほうから砂場と避難用のカート、あと砂場で遊ぶテーブルをいただきまして、現在避難カートは幸いなことに火事の時とかの避難用なので活用する機会はないんですが、2か月に1回避難訓練をやっているんですが、その中で職員が小さいお子さんなんかどうしても自分の足で逃げられない子を乗せてスムーズに避難す

るという訓練の中でだいぶ活用させていただいていますので、なにより越したことはないですが、万が一そういったことがあっても皆様にいただいた避難カートを利用して無事に避難できるのではないかなというふうに思っております。砂場とテーブルなんですけど、外に置いてあるんですが本当に子供たちが大喜びでその砂場で遊びたくてなかなか施設の中に入ってくれないということがあるくらい大喜びで、天気の良い日は外で遊ばせておりますので、本当に貴重なものをいただいたなと思っております。本当に感謝しております。本当にありがとうございます。近況なんですけど、西郷に「いろどりキッズ白河」を2年前にオープンさせて、この7月に「いろどりキッズ白河」というもの2号店ですね、オープンすることができました。二小の裏に白河保育園の跡地がございまして、ちょうど3月で新しいほうに移転して空いたところをお借りして7月からオープンさせていただきました。現在、子供のほうは少しづつ集まってはいるんですが、実際にどういった子供が利用しているのかということなんですけど、大体白河市で1歳半健診を受けるんですが、その中で言葉の遅れですとか、落ち着きがないという発達の様子が気になる経過観察のあるお子さんが、大体全体の4割いると言われております。その後、経過観察後に通常に何でもないねというお子さんと、やっぱりそのまま遅れがあるねというお子さんに分けられていくんですが、その中で言葉に遅れがあったりですとか、発達に遅れがあるというお子さんが通常保育園とかですと、大体1クラス20人とか30人に先生が1人とか2人くらいしか付かないんですが、当施設では大体子供2人に対して1人先生が付けるような体制になってますので、そういったところで訓練といいますか療育というんですが、うちの施設でそういったことを行うことによって、将来的にまた同じ年代の子と成長が同じになってくれば、通常の保育に通ったりとか普通の小学校に通ったりというふうになっていくための訓練をさせていただいております。最近よく聞く発達障害なんですけど、ここ10年の割合では、本当に一定数なんですけど先程言った全体の4割程怪しい子がいるというのは、実際は生活習慣の乱れですとか、最近でいいますとメディア依存、例えばスマホでユーチューブを見せたりとかゲームばかりさせてるみたいな形のところから発達障害と同じような状態になるケースがあると言われてます。我々のようなこういった施設が今白河地域に7か所ありまして、「いろどりキッズ白河」ができて8か所なんですけど、定員が決まってまして1事業所につきまして10人までしかお預かりできません。白河市の福祉計画というのがありますが、その中で令和2年度のそういった施設が必要とされるお子さんが約89名というデータが出ております。なので、単純に8か所×10人で80人なので、大体白河市では足りてるといふふうにはなるんですが、実際は白河市だけの子を預かってるわけではなくて、西郷ですとか遠い所では矢吹のほうから来ているお子さんもいるので、実際はまだまだ

足りていないというふうな状況になっております。児童発達の部分だけの話をさせていただきましたけども、さらに深刻なところでいいますと放課後等デイサービスが全く足りていないということです。放課後等デイサービスとは何ぞやということなんですけど、この辺でいうと児童クラブとかそういったところの障害のあるお子さんを預かる施設なんですけど、なんで足りてないのかといいますと、実際小学校1年生からそういった施設が使えるんですが、預かり期間というのが小学校1年から高校3年生まで12年間お預かりするので、一回入ると12年間空きが出ない、そういった状況です。実際、白河地域では14か所放課後等デイサービスがあるんですがもうすべて埋まっている状態で、うちの児童発達支援は2歳から5歳なので5歳になると卒園しなきゃいけないんですが、その先の放課後等デイサービスは先程言ったように12年間空きが出ないので、その先に行く施設がないということになっております。今後、「いろどりキッズ」の展開としてはこの放課後等デイサービス、要は児童発達で預かったお子さんを卒園したからもう行くところないよという無責任なやり方はしたくないということで、その放課後等デイサービスを作っていきたいと考えております。課題もあります。課題として、まず預かる人材の確保。必要な人材としては保育士がメインなんですけど、やはりどこに行っても保育士不足ということいわれてますのでそういった部分の確保と、さらには社員の教育、誰でも子供を見る人がいればいいというわけではなくて、福祉の部分が強くなってきますので、その福祉の質を上げていくことが大切なのかなというふうに考えております。最後になりますけども、現在、人の仕事がAIとかそういったものに取って代わってしまうと、将来的にそうなってしまうと言われてますが、この福祉の部分においては結局は人と人が触れ合うことで、例えばデータとかその経験値からは導き出せない人同士の僅かな変化みたいなものを見逃さないのも、結局人が触れ合っていないと近い距離にいないとできないのかなと私は思っております。この先、私共の企業が成長することが、この地域の福祉にとって発展に繋がっていくと思っておりますので、その辺も努力していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を頂戴できればと思います。最後の最後になりますけども、先程多大な寄付をいただいたということで、本当に西ロータリークラブさんが地域に根差した貢献をされている素晴らしい団体だなというふうに強く感じました。私も、もしこの会に入れていただければ、一緒に皆さんと地域貢献をしていきたいと考えておりますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。